

3年を振り返って

「自然と人の関係性を計るモノサシを作れないだろうか？」

この曖昧かつよくわからない問いかけに応じていただいた皆様にお礼を申し上げます。そして多くの地域の皆様と共にワークショップを開催できたこと、多様なイベント等々に参加できたことは光栄であり、有意義な3年間でした。

多くの方の協力なくしてこの事業はできなかったと思います。

モノサシを作るという当初の目的のうち「モノサシの作り方」はできたと感じています。が、「モノサシを作る人」と「モノサシの使い方」への踏み込みは浅く、今後への課題となりました。

現在いくつかの地域でこのモノサシ作りが刺激となって、新たな展開を迎えています。大月町では「笑顔」というモノサシが地域での様々な取り組みにより影響を与えてゆくでしょうし、香美市においては「休耕田の活用⇨地域の農作物生産」という形で動き始めています。室戸市の日南(ひなた)地区では地域計画立案の動きが見え始めていますし、高知市内の主婦グループからも、これをきっかけとした社会の仕組みのあり方への勉強会を継続する動きがあります。

また、新しいモノサシとなる可能性を秘めたSDGs目標の地域展開への応用や、生物多様性と地域、あるいは持続可能な社会構築のためのワークショップへの応用などの提案も聞こえてきます。

新しい世代からは、「シフトチェンジ」や「トランジション」あるいは「エシカル」などの消費行動の指針においてのヒントの共有もお聞きしています。

小さな地域といえども拡大しつつあるグローバル化の影響から逃れられないでしょう。各地域、そして各自が考え行動しなくてはいけない時代になります。その時にこのモノサシの取り組みがお役に立つとしたら、それはこの上ない喜びです。事業は一旦区切りをつけますが、「モノサシを作る」という事業は継続いたします。これを読んだ皆様からの声掛けをお待ちしております。

最後に

各地域や団体の皆様には大変お世話になりました。この場を借りて御礼申し上げます。

中土佐町上ノ加江地区・大月町・四万十町旧大正中津川地区・奈半利町米ヶ岡地区・香美市平山地区・室戸市日南地区・香美市立楠目小学校・地域交流施設ほっと平山・株式会社土佐山田ショッピングセンター・高知生物多様性ネットワーク・高知オーガニックマーケットほか諸団体の多数の皆様

高川晋一(公益財団法人日本自然保護協会)

長谷川雅子(一般財団法人CSOネットワーク)

大原泰輔(特定非営利活動法人高知県西部NPO支援ネットワーク) 順不同敬称略

参考文献 *順不同

『SDGsとESG時代の生物多様性・自然資本経営』2017年 藤田香 日経BP社

『季節の民俗』1969年 桜井徳太郎 秀英出版

『植物と行事』1993年 湯浅浩史 朝日新聞社

『伝統文化の心』2002年 生方徹夫 (財)モラロジー研究所

『聞き書き高知の食事』1986年 日本の食生活全集高知編集委員会編 (社)農山漁村文化協会

『日本文化の多重構造』1997年 佐々木高明 株式会社小学館

『人と自然のふれあいほんどぶっく』2010年 著者 NACS-Jふれあい調査委員会 発行(公財)日本自然保護協会

『日本の生物多様性「身近な自然」とともに生きる』

2010年 著者NACS-J生物多様性の道プロジェクト生態系サービスモニタリングチーム 発行(公財)日本自然保護協会

『幡多学事始』2012年 著者幡多学ことはじめ組 (特非)高知県西部NPO支援ネットワーク

『「地域の力」診断ツールワークブック』2016年 編集・発行(一財)CSOネットワーク

企画・執筆 谷川徹 (農と生きもの研究所)